

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520314

研究課題名(和文) 文学作品を用いた英語教育の教授法と教材の開発に関する研究

研究課題名(英文) Study on teaching methods and materials for using literary texts in the EFL classroom

研究代表者

寺西 雅之(Teranishi, Masayuki)

兵庫県立大学・環境人間学部・准教授

研究者番号：90321497

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：英語教育における文学作品の役割を再評価した本研究の成果として、まず教育現場での実地調査が挙げられる。特に、言語教育において評価の高いフィンランドや英国において実施した授業参観からは重要な教育的示唆を得ることができた。また、上級レベルの外国語学習者に対して行ったインタビューより、外国語習得における文学作品の具体的な役割を発見することができた。さらに、『文学教材実践ハンドブック』等の教材・授業実践集を作成し文学教材を用いた英語教育の普及に貢献できた点も大きい。最後に国際誌への論文投稿や国際学会での発表等本研究の成果を世界に向けて発信し、各国の研究者との協力体制を築いたことも大きな成果である。

研究成果の概要(英文)：Our achievements in this research project can be summarized as follows. Firstly, observations of actual teaching practice, not only in Japan but also in other countries such as Finland and UK, have contributed to a reevaluation of literary texts in language learning and teaching. Secondly, interviews with successful learners have helped clarify the role of literature in foreign language acquisition, as well as other pedagogical effects such as improving cross-cultural understanding. Thirdly, we published a textbook of literary texts and teaching practices which we hope will encourage those teachers unfamiliar with literary texts to use them in their classrooms. Finally, we have published several articles (one of them is for Language and Literature, the prestigious International Journal) and made presentations at international conferences and through them we have established various international connections to enable us to carry out further research in related areas.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：文学教育 英語教育 多読 教育的文体論 オーラルヒストリー ラーナー・オートノミー 国際情報交換

1. 研究開始当初の背景

研究を開始した平成23年には、実用的英語運用能力の育成を目指した一連の「改革」にもかかわらず、日本の英語教育には依然として顕著とした改善は見られず、むしろ「聴く」、「話す」に加えてそれまで日本人学習者が得意としてきた文法や読解力にも問題が見られ始めていた。また当時発表されたPI SAなどの結果によると、読解力をはじめとする日本人の「国語力」の低下も顕著であり(田中博之、『フィンランドの学力革命 - その秘訣を授業に生かす30の方法』等参照)、そこには実用的な英語運用能力を偏重した英語教育が少なからず影響していると推測された。このような状況のもと、教育的文体論(小迫勝他編、『英語教育への新たな挑戦』参照)や多読授業(小林めぐみ、深谷素子他編、『多読で育む英語力プラスα』参照)の実践を通じて、英語教育にも文学教材が復活しつつあり、その動きは中・高等学校の英語教育にも波及しつつあった。また研究分野としては、JACET文学教育研究会に続き、日本英文学会においても英語教育における文学の役割を追究する分野が台頭し始め、また同様のテーマを専門とする学会Liberlitがスタートしたのもこの研究がスタートする直前の平成22年であった。一方海外においても、国際文体論学会(Poetics and Linguistics Association)の中で「教育的文体論」という分野が確立されるなど、英語教育における文学テキストの役割が再度注目を浴びていた。

それまでの日本の英語教育における英米文学作品の役割は、大きく分けて文化、モラル、教養といった内容面と、文学作品を通じて、英語力を磨くという英語教育的側面の2つに分類されていた。この2つの役割は、相矛盾するものと見なされどちらか一方が無視されてしまうか、あるいはテキストの訳読の過程を通じて同時に達成できるものと「楽観視」され、その目的を達成するうえでの障害や問題点はそれまであまり議論されることはなかった。結果として文学作品の教材としてのポテンシャルが十分に研究される機会はほとんどなく、文学教材が英語教育現場において十分に活用されてこなかったというのが、研究開始当時の実情であった。

2. 研究の目的

上記に述べた通り、英語力だけでなく読解力など学力全般の低下が指摘される中、本研究グループでは、英語教育における文学作品の役割を再検討し、英米文学研究と英語教育の有機的な結合を目的に研究を進めていった。本研究では特に、国内外の授業視察、外国語学習成功者へのインタビュー、および国内外の学会活動を通じて、英語文学作品の効果的な活用方法を英語教育および文学教育の視点から探求し、文学研究と英語教育の融合

を目に見える形で示すことを心がけて研究を進めた。具体的な目的として、(1)文学作品を用いた教授法・教材の開発、(2)その効果の測定、そして(3)従来の英語運用能力試験では測れない解釈力・表現力等の「プラスα」の効果突き止め、かつそれを測定することを掲げた。

3. 研究の方法

上記の研究目的を達成するために、本研究では、まず(1)先行研究の検討により理論的枠組みの構築と仮説の設定を行い、(2)授業現場等の実地調査および(3)英語上級学習者へのインタビュー調査により、実際の教育・学習における実態の把握に努めた。特に1980年以降の英語・英語文学教育の流れを、多読、教育的文体論、学習者中心主義といったキーワードを中心にまとめた。

これらの蓄積されたデータの分析を参考に、(4)文学作品を用いた英語教材と教授法を開発し、本研究グループの研究者自身が実践し、さらにその内容を著書や研究グループのホームページなどを通じて公開し、文学教材を用いた英語教育の普及に努めた。その一方で、文学教材を用いた英語教育を実践している研究者・教員からのフィードバックも随時本研究に反映させていき、本研究の成果が質・量的に精度が高まるように配慮した。

4. 研究成果

本研究の成果として、(1)教育現場における実地調査の実施、(2)外国語習得の成功者へのインタビューおよびその質的分析、(3)文学教材を用いた教材・授業実践集の作成、そして(4)国際社会に対する研究成果の発信、の4点が挙げられる。以下項目ごとにその要点をまとめる。

(1) 教育現場における実地調査

本研究期間を通じて、国内外の小・中・高校および大学の教育現場の視察を通じて、参考点、問題点をまとめた。まず研究代表者の勤務校と交流の深い兵庫県立大学附属高校および中学校にて実践されている英語授業やディベート大会などを視察し、教育現場の実情を分析した。また奥聡一郎氏がイギリスの小学校(St. Ebbe's CE(Aided) School等2校)にてEnglishの授業を見学し、文学教材の扱い方を中心に研究を行い、深谷素子氏はフィンランド、トゥルク市内のオスタリヴォリ中学、高校にて英語授業(4教員、9授業)を視察し、ラーナーオートノミーとしての多読の活用について分析・考察を行った。これらの研究活動を通じて、文学作品を用いた英語教育に関する現状をグローバルな視点から捉え直し、また日本の英語・文学教育の改善に関する重要な示唆を得ることもできた。

(2) 外国語習得の成功者へのインタビュー 本研究メンバーの那須雅子氏を中心に、慶

應義塾大学、成蹊大学、東京大学、および東京外国語大学において、英語上級者へのインタビューを行い、その内容を整理・分析した。また、学生以外にも、仕事において実際に英語を使用している社会人や、外国語としての日本語を習得したアメリカ人、韓国人にもインタビューを行い、外国語学習に共通する普遍的な上達法を分析するとともに、外国語学習における文学作品の役割も明らかにしていった。

(3) 教材・授業実践集の作成

(1) (2) を踏まえて日本の教育現場の実情に合った教材・教授法を開発し、更にそれを実際の教育現場で使用し、フィードバックを受けることにより、その改善を重ねていった。この成果の一部は『TOEIC Test Advantage: TOEIC形式で学ぶ国際社会と教養』(2014年、図書)と『文学教材実践ハンドブック—英語教育を活性化する—』(2013年、図書)にまとめられている。

(4) 国際社会に対する研究成果の発信

本研究メンバーが、国際文体論学会、World CALL Conference、そして Liberlit などの国際学会で積極的に成果を発表し、文学作品を用いた英語教育に関する研究を国際的なレベルで進めていくための協力体制を築くことに成功したことが大きな成果として挙げられる(〔学会発表〕参照)。さらに、本研究成果の一部は、イギリス、オランダ、中国の研究者との共著の形で、国際的な出版社の Palgrave Macmillan より *Literature and language Learning in the EFL Classroom* (仮題)として、2015年に出版されることが決定しており、引き続き国際的な見地に立った研究を進めていく予定である。

まとめ

これらの研究成果より、外国語としての英語教育における文学教材の役割とその教育的効果を可能な限り具体的に提示し、文学教材が実際の教育現場に普及することにより英語教育の改善に貢献できたものと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

奥 聡一郎、「入門機英語教育における評価」、関東学院大学理工学部建築・環境学部教養学会「科学/人間」43巻、査読無、2014年、1-14

西原 貴之、「文学教材を使用した一般英語リーディング授業の期末テストに関する一考察」、日本英文学会第85回 Proceedings: The 85th General Meeting of The English Literary Society of

Japan(付2012年度支部大会 Proceedings)、査読無、2013、27-28

西原 貴之、「大学英語教育に文学教材を使用する際の留意点：文学テストのスコアと授業成績および TOEIC のスコアとの相関分析からの示唆」、日本英文学会第85回 Proceedings: The 85th General Meeting of The English Literary Society of Japan(付2012年度支部大会 Proceedings)、査読無、2013、215-216

奥 聡一郎、「イギリスにおける言語教育と文学教材」、関東学院大学理工学部建築・環境学部教養学会「科学/人間」42巻、査読無、2013年、47-61

Teranishi, M., Saito, A., Sakamoto, K., and Nasu, M. 'The role of stylistics in Japan: A pedagogical perspective', *Language and Literature* 21(2), 査読有、2012年、226-244

DOI: 10.1177/0963947012444034

西原 貴之、「Hare-in-the-Moon から英語教育への贈り物? - 教材"The Hare's Gift"における文学的言語表現とそれらの付随教材での扱われ方についての検討 - 」、*Language Education & Technology* 49、査読有、2012年、245-274

西原 貴之、「一般英語授業で英語小説教材を使用した場合のテストについての提案」、日本英文学会第84回 Proceedings: The 84th General Meeting of The English Literary Society of Japan, (付2011年度支部大会 Proceedings)、査読無、2012、225-226

Nishihara, T. 'Poetry reading and noticing the hole in interlanguage: A proposal for investigating the relation between poetry reading and interlanguage development', *JACET Journal* 54, 査読有、2012、53-59

寺西 雅之、「モダニストフィクションを教える」、日本英文学会第83回大会 Proceedings、査読無、2011、34-36

深谷 素子、「読書指導の場としての多読授業: "Reading for pleasure" というマジック・ワードを再考する」、慶應義塾外国語教育研究第8号、査読有、2011、69-90

〔学会発表〕(計18件)

寺西 雅之、「“日本発”グローバル発信例～英語文学教育の“国際化”～」日本国際教養学会第3回全国大会シンポジウム、2014年3月16日、慶應義塾大学日吉キャンパス(神奈川県横浜市)

Masayuki TERANISHI, 'How best to Teach English through literature in the EFL classroom: reading a Japanese poem in English'. Poetics and Linguistics Association (PALA)第33回大会、2013年8月3日、ハイデルベルグ

大学(ドイツ)

Soichio OKU, 'A stylistic comparison of Grimm's fairy tales with reference to pedagogical tools'. Poetics and Linguistics Association (PALA)第33回大会、2013年8月3日、ハイデルベルグ大学(ドイツ)

Masako NASU, 'Is it disappointing 'Isabella was perfectly empty'? A stylistic analysis of Virginia Woolf's *The Lady in the Looking-Glass: A Reflection*'. Poetics and Linguistics Association (PALA)第33回大会、2013年8月1日、ハイデルベルグ大学(ドイツ)

Soichio OKU, 'Report on reading strategy using digital texts'. World CALL Conference 2013, 2013年7月10日、Scottish Exhibition and Conference Centre in Glasgow(イギリス)

西原 貴之, '文学教材を使用した一般英語リーディング授業の期末テストに関する一考察', 日本英文学会第85回大会、2013年5月25日、東北大学(宮城県仙台市)

玉井 史絵, 'グローバル人材の育成に向けて その理念と実践と課題', 日本国際教養学会第2回全国大会公開シンポジウム(招待講演) 2013年3月17日、岡山大学(岡山県岡山市)

Masayuki TERANISHI, 'Reading non-literary texts in a literary way: A critical stylistic perspective'. The 4th Liberlit Conference, 2013年2月15日、明治学院大学(東京都港区)

西原 貴之, '大学英語教育に文学教材を使用する際の留意点: 文学テストのスコアと授業成績および TOEIC のスコアとの相関分析からの示唆', 第65回日本英文学会中国四国支部大会、2012年10月27日、高知大学(高知県高知市)

Motoko Fukaya, 'The effect of reading guidance in an ER Program'. JALT (The Japan Association for Language Teaching), 2012年10月13日、アクティシティ浜松(静岡県浜松市)

西原 貴之, '日本人英語学習者による英語文学作品読解プロセスの特徴に関する研究: 読解中の辞書使用回数に焦点を当てて', 第38回全国英語教育学会、2012年8月4日、愛知学院大学(愛知県日進市)

Masako NASU, "To be only a sensibility": Stylistic Analysis of Woolfian Internal Realism'. Poetics and Linguistics Association (PALA)第32回大会、2012年7月18日、Corinthia San Gorg Hotel(マルタ共和国)

Masayuki TERANISHI, 'Literariness in non-literary texts: application of

literary stylistics to comic dialogue and lyrics'. Poetics and Linguistics Association (PALA)第32回大会、2012年7月17日、Corinthia San Gorg Hotel(マルタ共和国)

Soichio OKU, 'A Stylistic Approach to Digital Texts: Teaching Literary Texts through New Media'. Poetics and Linguistics Association (PALA)第32回大会、2012年7月17日、Corinthia San Gorg Hotel(マルタ共和国)

那須 雅子, '英語学習版「オーラルヒストリー」の編纂に向けて: 外国語学習における「読書」の役割について', 日本英文学会第84回大会、2012年5月26日、専修大学(神奈川県川崎市)

寺西 雅之, '文学批評からテキスト批評へ: 文学性を味わう・教える', JACET関西支部文学教育研究会4月例会(招待講演) 2012年4月21日、同志社大学今出川キャンパス(京都府京都市)

寺西 雅之, '「モダニストフ・イクション」を教える', 日本英文学会第83回大会、2011年5月21日、北九州大学(福岡県北九州市)

深谷 素子, '「英語を読むのが楽しい」段階から「本を読むのが楽しい、たまたま英語の本だけけれど」という段階を目指して', 日本英文学会第83回大会、2011年5月21日、北九州大学(福岡県北九州市)

〔図書〕(計3件)

寺西 雅之、宮上 久仁子、那須 雅子、『TOEIC Test Advantage: TOEIC形式で学ぶ国際社会と教養』、南雲堂、2014、82

馬本勉、溝部ちづ子、西川由紀、堂鼻康晴、河村和也、本岡直子、西原貴之、平本哲嗣、山川健一、能登原祥之、佐々木淳、Clare Barnfather、松岡博信著、『外国語活動から始まる英語教育: ことばへの気付きを中心として』、あいり出版、2014、91 - 105

吉村俊子、安田優、石本哲子、齋藤安以子、坂本輝世、寺西雅之、幸重美津子編著、『文学教材実践ハンドブック—英語教育を活性化する—』、英宝社、2013、218

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.kaken-litedu.sakura.ne.jp/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

寺西 雅之 (TERANISHI, Masayuki)
兵庫県立大学・環境人間学部・准教授
研究者番号：90321497

(2)研究分担者

奥 聡一郎 (OKU, Soichiro)
関東学院大学・建築・環境学部・教授
研究者番号：30288089

玉井 史絵 (TAMAI, Fumie)
同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授
研究者番号：20329957

深谷 素子 (FUKAYA, Motoko)
慶應義塾大学・法学部・講師
研究者番号：40468616

寺西 雅子 (那須 雅子) (TERANISHI, Masako)
岡山大学・言語教育センター・准教授
研究者番号：50311098

西原 貴之 (NISHIHARA, Takayuki)
県立広島大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：50469590

小澤 緑 (市川 緑) (OZAWA, Midori)
香川高等専門学校・その他部局等・准教授
研究者番号：90413834
(削除：平成24年3月31日)

藤原 知予 (FUJIWARA, Chiyo)
香川高等専門学校・その他部局等・助教
研究者番号：40609674
(追加：平成24年4月1日、削除：平成25年8月30日)